

2025 年度第 1 回ふれあい講座実施報告

実施日時

2025 年 6 月 20 日 (金) 19:00~20:30

場所 JICA 沖縄体育館 来場者数 74 名 (一般 54 名) (研修員 5 名) (関係者名 15 名)

JICA 研修員 (出身国)

研修コース：島嶼国における水産業多様化と資源の持続的利用 (5 か国 5 名)

Mr. アンデミカエル (エリトリア) Ms. モアイシ (キリバス)

Mr. ダーレン (ミクロネシア) Mr. モエル (ソロモン諸島)

Mr. ラフィー (東ティモール)

当日の様子

第 1 回目ふれあい講座は「島嶼国における水産業多様化と資源の持続的利用」コースに参加されている、5 ヶ国 (エリトリア・キリバス・ミクロネシア・ソロモン・東ティモール) 5 名の研修員による簡単な自己紹介からスタート。緊張しながらも、覚えてたの日本語を披露してくれました。

恒例のお国クイズでは、エリトリアの主食インジェラが世界で最小の穀物で、ゴマよりも小さな粒だと教えてくれる他、9 つの民族が共存していることを話してくれました。キリバスからは輸出品「コブラ」について、東ティモールの至る所にある「キオス」のこと、コーヒーが有名な特産品であること、ミクロネシアのダーレンさんは映像を用意し、遺跡のことを教えてくれました。ソロモン諸島のモエルさんは、大地の精霊ヌズヌズの事、ソロモン諸島には第二次世界大戦で戦没した方の日本の碑が建てられていることを話してくれました。参加者の皆さんがクイズの答えに一喜一憂する姿に研修員たちも大変喜んでおりました。

各国ブースでは JICA 本部から OJT 研修のために来沖している新入職員 5 名が「通訳者」として各ブースに付き、得意の英語力で参加者と研修員を繋いでくれました。通訳してくれるスタッフがブースにいて、参加者のみなさんは展示されている写真について質疑応答をしたり、研修員さんからのお話を聞いたり、緊張や不安が解けて笑顔で交流する場が全てのブースで見られました。中には 3 世代で参加しているご家族もあり、おじい様が旅行で訪れた際の経験を語る姿が印象的でした。どの国の研修員さんも明るくフレンドリーで、紅一点のキリバスのモアイシさんは真っ赤なサマードレスを着用しており、「この胸元のギザギザはキリバスのサメの歯の形よ！」と元気にアピールしていました。小学生や幼児から「かわいい！」と声をかけられ、「英語では“キュート”って言うのよ！」と子どもたちに教えてくれる場面もありました。

楽しい交流の締めくくりは、恒例の「カチャーシー」。来場者が踊り方を研修員に伝授し、モアイシさんはキリバスの伝統的なダンスを披露。会場は賑やかで、笑顔あふれる時間となりました。研修員からは、「沖縄の人々の優しさと温かさ、便利な暮らしに感動した」「歴史や文化、自然を継承・保存することの大切さを学んだ」といった感想が寄せられました。また、「皆さんのホスピタリティが研修中の困難に直面したときに“もっと頑張ろう！”という力になります」との声もあり双方にとって良い交流の機会となったようです。

しばらくは外壁工事でご来場の皆さまにご迷惑をおかけいたしますが、安全に考慮しながら開催致します。次回は 8 月 29 日 (金) 19 時開催！皆さまのお越しをお待ちしております。

